



## ■ 水辺の楽校が東京環境工科専門学校の実習地となりました



同校はビオトープ管理士やインタープリターなど、自然の中で働く人たちを育成する専門学校です。今回の企画は講師をお願いしている三森典彰さんのご尽力で実現しました。同校との連携により、水辺の楽校の環境保全や環境学習活動の推進が図れるものと大きく期待されます。

7月11日に実施された「環境造園技術実習」には、2年生35人、先生3人が参加され、トンボ池やカエル池のモニタリングが実施されました。臼井会長や中村副会長がご案内し、生徒の皆さんと交流を深めました。今年度の計画は年4回。加藤輝代子教頭先生は「実習地として素晴らしい所。専門のクモの調査やエコアップ等に協力したい」とエールを送っていただきました。

## ■ 第一回開講！「相模の国から自然塾」



環境ボランティアの育成を目的とした「相模の国から自然塾」の講座が7月20日に開催されました。当日は2名の方が参加され、早川講師の指導により、草地の管理の在り方やカヤネズミの生息調査を実施しました。

カヤネズミ調査(写真)は、エントランス付近を重点に、原っぱやお花畑南端のオギ原を調べましたが、少なく、全部で3巣しか見つかりませんでした。セイタカアワダチソウの侵出によるオギ原の減少が要因と思われます。

私たちが何気に見ている原っぱですが、バッタ類やノウサギなど、たくさんの生き物がすんでいます。草地の保全は県内では、野焼きで有名な仙石原湿原の事例がありますが、普通の原っぱが保全されているという話は聞いたことがありません。こんなに広い原っぱが残されている所はそうはありません。今回の取り組みを保全策実行のきっかけに行きたいと考えています。